

# 令和3年4定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和3年12月7日

質問者 日本共産党 菊地 葉子 議員

担当部課 総合政策部政策局参事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>一 新型コロナウイルス感染症対策等について</b></p> <p><b>(一) 警戒ステージの見直しについて</b></p> <p>道は、道の警戒ステージを見直す方針を示しましたが、これまでの目安の新規感染者数などより医療の逼迫状況を重視したものとなっています。</p> <p>緊急事態宣言発出基準であるレベル3は「病床使用率50%超」であり、新規感染者数は要件とされていません。しかし、政府分科会は「感染の状況を引き続き注視する」としており、感染者数の変化の注視が極めて重要と考えます。</p> <p>今回の見直しにあたって、なぜ新規感染者数を除外したのか何うとともに、感染者数の推移を道の判断にどう反映させるのか、伺います。</p> <p><b>【再質】</b></p> <p>様々な指標をモニタリングするとの答弁でしたが、新規感染者数指標をレベル3以上の判断要件からは除外して、感染状況等の十分な分析や評価が客観的にできるのでしょうか。</p> <p>医療逼迫状況には、自宅待機を余儀なくされる方は含まれておらず、実態を客観的に掌握し、具体的な措置を講ずるべきと考えますが、いかが伺います。</p> <p><b>(二) 道による早期の対応について</b></p> <p>11月に一部地域で発生したクラスターにより、感染経路不明者割合は一時44%に上り、1週間当たりの感染者数は一時「まん延防止等重点措置」の適用目安を超えていましたが、道は特段の対応を行わなかったのはなぜですか。こうした対応は不十分であり、道として明確な警戒メッセージを発するべきと考えますが、いかがですか。伺います。</p>	<p><b>【知事】</b></p> <p>新たなレベル分類についてであります。このたび、医療のひっ迫の状況に重点を置きながら、地域の実情に応じて、機動的に対策を講じていくという、国の考え方が示されたところであり、道では、有識者などの関係の皆様からいただいたご意見を踏まえ、レベル0及び1については、先行指標となる新規感染者数に着目するとともに、レベル2については、病床使用率に加え、新規感染者数等の指標を独自に設定するほか、レベル3以上については、病床のひっ迫の状況を重視して対応するという運用について検討しているところでございます。</p> <p>また、レベル移行の判断に当たっては、感染動向を的確に把握していくため、感染経路不明割合や陽性率など様々な指標をモニタリングし、感染状況等の分析や評価を進めてまいります。</p> <p><b>【知事】</b></p> <p>新たなレベル分類についてであります。道では、医療のひっ迫の状況に重点を置きながら、対策を講じていくという、国の考え方を踏まえ、新たなレベル分類の導入に向けた検討を進めているところであり、病床使用率といった具体的な数値など適切に指標を設定し、レベルの移行を検討する考えであります。</p> <p>また、レベルの移行や対策の実施に当たっては、レベル3以降においても新規感染者数のほか、先週と比較したその伸び率、さらには療養者数など様々な指標をモニタリングし、感染状況等の分析や評価を行ってまいります。</p> <p><b>【総合政策部長】</b></p> <p>地域における対応についてでございますが、本年11月の旭川市における感染拡大に対し、道といたしましては、医師・保健師による「広域支援チーム」を派遣し、国立感染症研究所の専門家や市と一体となって感染防止対策に取り組んできたところであり、具体的には、感染経路の把握や濃厚接触者の特定はもとより、繁華街の臨時PCR検査場や予約不要の臨時ワクチン接種会場の設置などを進めてまいりました。</p> <p>また、道の対策本部や記者会見において、集団感染の発生状況などをお知らせし、知事から感染防止行動の徹底を呼びかけたほか、旭川市と振興局が連携し</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>【再質】</b></p> <p>「まん延防止等重点措置」基準を超えたからこそ、道は対策が必要と認識し、臨時PCR検査場の対応を進めてきました。しかし、道民へのメッセージはこれまで通りの一辺倒で、危機感を訴える中身となっていなかったのではありませんか。</p> <p>行政の対策が後手に回ったとならないよう、時々、の感染状況に応じて道民への早期で明確なメッセージの発信のあり方を改善すべきではありませんか。お答え願います。</p> <p><b>【再々質】</b></p> <p>札幌医科大学の横田伸一教授は、しんぶん赤旗日曜版のインタビューで「北海道の第4波、第5波の感染拡大の際には明らかに行政の対策が後手に回りました」と述べ、東京五輪マラソンテストイベントが終わるまで「まん延防止等重点措置」が取られず、急激な感染拡大につながったと指摘しています。これまで早期の感染拡大抑え込みに道の施策と判断の遅れによって、成功していないことが専門家からの指摘からも明らかになっており、知事は重く受け止めるべきです。</p> <p>横田教授は、「この冬にも第6波の感染拡大が発生するおそれがある中で、早めの対応は社会経済への影響を小さくして、大きな感染の波を起こさせないことにつながると思っています」とも指摘しています。そのためには、道民へのわかりやすい強いメッセージを早期に打ち出すことが不可欠です。</p> <p>対応が後手に回ったこれまでの対応を顧みて、より丁寧でわかりやすい情報発信を行うよう、知事の姿勢を示すべきではありませんか。伺います。</p>	<p>て、SNSやコミュニティFM、フリーペーパー、広報車など多様な手段により啓発活動の強化を図ったところがございます。</p> <p><b>【知事】</b></p> <p>道民の皆様への情報発信についてであります。感染拡大の防止に向けては、道民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、対策を進めていくことが重要であると認識しております。旭川市において感染の拡大傾向が見られた際には、市長と振興局長が、共同で警戒メッセージを発したほか、道の対策本部や記者会見において、私から、市内の集団感染の発生状況などを踏まえた感染防止行動の徹底を呼びかけてきたところであり、今後とも、地域の感染状況など具体的な事例を用いながら、丁寧でわかりやすい情報を、適時に発信できるよう努めてまいります。</p> <p><b>【知事】</b></p> <p>道民の皆様への情報発信についてであります。道としては、感染拡大の防止に向けては、道民の皆様のご理解とご協力をいただきながら、対策を進めていくことが重要と考えております。</p> <p>今後とも、道の対策本部や記者会見はもとより、振興局長と市町村長の共同メッセージなどによりまして、その時々、の感染状況等を踏まえながら、丁寧でわかりやすい発信に努めてまいります。</p>